

生産技術・生産効率の向上

製造本部長
おかわ ともぞう
小川 智三
より

グローバルでの連携や自動化などにより生産効率向上を図ります

当社では、製造の基礎となる「リケンスタンダード」について、グローバル各拠点での理解をさらに深め、製造/品質の向上を図っていくとともに、製造における課題をグローバルで共有し、グループ全体で解決を目指す取り組みを開始しました。

また、国内では自動化設備の導入、設備故障の予兆管理システムの導入、工場ユーティリティ設備の再構築の検討を積極的に進めています。当社製造の鍵となるプロセスに焦点を絞り、これまで以上の高品質、低コストの製品が生み出せるよう、産産/産学連携による生産技術の深掘り、PI (プロセス・インフォーマティクス)を用いた最適生産条件確立のスピードアップを実行しています。



設備管理の標準化

設備故障による生産ライン停止は生産効率低下の大きな要因のひとつです。重大設備故障ゼロを目指すため、設備管理の標準化を推進しています。

設備管理の標準化に関してはTPM (総合的生産保全)の自主保全の思想を基に、事後保全、予防保全の考え方を整理し、設備点検項目の全面見直しを実施しました。日常点検を監視点検、週例点検を性能維持点検、月例点検を性能維持/傾向管理・変化点管理点検と定め、各設備の正常運転時におけるステータスの適正範囲を設定しました。日常点検箇所にセンサーを設置して状態監視することで、従来からの

点検頻度の見直しや効率化による作業者の負担低減、点検により稼働停止による生産効率の低下を改善していきます。今後は、月例点検箇所を中心に設備運転時のステータスデータを収集・蓄積して適正制御範囲を見極めていくとともに、運用範囲を拡大していきます。加えて、各生産工程における自動化や省人化の取り組みも段階的に進めていきます。



製造担当の声

三重工場
コンパウンド製造課
いとう ひろし
伊藤 浩さん



センシング技術の導入により、設備状況の変化にも敏感に気付けるようになりました。リアルタイム監視で常に最新情報を知ることができる他、作業経験に関係なく誰でも簡単に確認ができるので安心して生産ができます。また、点検など確認作業に費やす時間も短縮され、作業効率の向上につながりました。

配合・混練技術

複数素材のモルフォロジー制御、反応改質技術により、ますます広がる高性能材料へのニーズに対応します。お客様での加工適性を高めるため、最適な混練状態にてコンパウンドを提供しています。また、当社が長年培ってきた技術を活かし、最適な成形加工条件やお客様での成形不具合の改善提案をしています。これらの生産加工技術は、世界の生産拠点でも継承されています。

フィルム製膜・加工技術

当社の熱可塑性樹脂での製膜技術は、世界でも通用する技術力を有しており、フィルム表面の均質性や品質安定性は非常に優れています。また、多様なラミネート加工技術により、特性の違うフィルムをラミネートすることができます。フィルムの表面改質のためコーティング加工も行っており、汎用レベルから精密塗工までの塗工技術を保有しています。これらのフィルム製膜、ラミネート、塗工技術の総合的的追求により、付加価値の高い機能性フィルムを提供しています。

